

岡病防第 11号  
平成23年 8月31日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

平成23年度病虫害発生予報第6号

平成23年 8月31日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	穂いもち病 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — —	やや少 やや少 並 並 やや少 やや少
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — — —	やや少 やや少 やや少 やや少 並
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	— — 並	並 やや少 並
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	— — — —	並 並 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — — —	やや多 やや多 並 やや多
トマト	疫 病 斑点細菌病 葉かび病	— — —	並 並 並
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	やや多 やや多 少 やや少
キ ク	ナミハダニ	—	やや少

## 1. 普通作物

### (水 稲)

#### (1) 穂いもち (晩生種)

##### 予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

##### 予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育はおおむね平年並である。

イ. 8月15～16日の巡回調査によると、南部地帯の葉いもちの発生圃場率は47.2%で、平年(56.9%)並であった。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや抑制する要因となる。

#### (2) 紋枯病 (晩生種)

##### 予報内容

発生量 やや少

##### 予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査によると、発生圃場率は26.7%で平年(50.5%)より低く、発病程度の高い圃場は認められなかった。

イ. イネの茎数は平年並であり、特に助長要因ではない。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する要因となる。

#### (3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

##### 予報内容

発生量 並

##### 予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

#### (4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

##### 予報内容

発生量 並

##### 予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は37.9%で平年(34.6%)並であり、発病程度の高い圃場は認められなかった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する要因となる。

#### (5) もみ枯細菌病 (晩生種)

##### 予報内容

発生量 やや少

##### 予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年より少なかったことから、本年度の種子の保菌率は平年より低かったと考えられる。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する要因となる。

#### (6) トビイロウンカ

##### 予報内容

発生量 やや少

##### 予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～5半旬の誘殺数は1頭で平年(

2.6頭) よりやや少なかった。

イ. 8月15～16日の巡回調査では発生を認めず、平年(発生圃場率2.7%)より低かった。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高いとされており、本虫の増殖をやや助長する要因となる。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや抑制する要因となる。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査では、平年同様茎葉での発生を認めなかった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや抑制する要因となる。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査では、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する要因ではない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は1,037頭と平年(1281.7頭)よりやや少なかった。

イ. 8月15～16日の巡回調査によると、白化葉の発生ほ場率は2.6%で平年(6.8%)より低く、発生程度は軽微であった。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する要因となる。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～5半旬の誘殺数は、アオクサカメムシは1頭で平年(6.5頭)より少なく、イチモンジカメムシは15頭で平年(17.8頭)並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する要因となる。

2. 果樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は0頭で平成(12.1頭)より少なかった。

イ. 8月8日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で平成(4.8%)よりやや高かったが、発生程度の高い圃場は認められなかった。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月8日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は28.6%で平成(51.9%)よりやや低く、発生程度が中程度以上のほ場率は10.7%で平成(17.5%)よりやや低かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平成並または高く、降水量は平成並とされており、発生をやや助長する要因となる。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 第2世代成虫の推定50%抱卵日は8月27日で平成(8月27日)並であった。

イ. 7月15日の巡回調査では第2世代成虫の発生を認めず、平成(発生圃場率0.8%、過去10年間で8年間は発生を認めていない)並であった。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平成並または高く、降水量は平成並とされており、発生をやや助長する要因となる。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)での発病葉率は33.0%で、平成(41.9%)よりやや低かった。

イ. 8月8日の巡回調査によると、発生量は平成並であった。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の降水量は平成並とされており、特に発病を助長する要因ではない。

(2) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月8日の巡回調査によると、発生圃場率は90.9%で平成(78.1%)並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平成並または高く、降水量は平成並とされており、発病をやや抑制する要因となる。

(3) さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月8日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する要因ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 越冬幼虫による5～6月の被害枝の発生は平年並であった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は57.1%で平年(平年値37.1%)よりやや高かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する要因ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は85.7%で平年(64.9%)よりやや高かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する要因となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年(17.5%)並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する要因ではない。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は42.9%で平年(29.1%)よりやや高かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する要因ではない。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査では発生を認めず、平年（3.3%）並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する要因ではない。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する要因となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査によると発生圃場率は37.5%で、平年（25.0%）並であった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する要因となる。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量	アブラムシ類	やや多
	モザイク病	やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤における8月1半旬～5半旬の飛来数は820頭で、平年（338.3頭）より多かった。

イ. 8月24～25、29日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年並であった。

ウ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

エ. 8月24～25日の巡回調査によると、ダイコンのモザイク病発生圃場率は22.2%で平年（18.0%）並であった。

(2) コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）における8月1半旬～5半旬のフェロモントラップの誘殺数は0頭で、平年（6.9頭）より少なかった。

イ. 8月24～25、29日の巡回調査によると、ダイコン、キャベツ等での発生は認められず、平年より少なかった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月29日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイ、キャベツ等で

の被害発生圃場率は8.0%で、平年（18.4%）より低かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

#### 4. 花 き

(キク)

##### (1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（26.5%）より低かった。

イ. 8月26日の季節予報によると、9月の気温は平年並または高く、降水量は平年並とされており、本虫の発生をやや助長する要因となる。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。

なお、これまでご活用いただいていたテレホンサービスは、平成22年度をもって終了いたしました。これまで、永きにわたり、多くのご利用を頂きありがとうございました。病虫害発生予察情報は、引き続き、上記岡山県病虫害防除所ホームページをご利用ください。